

2016「蛹の声」音楽育成計画

(EI Sistema Puli エル・システム埔里)の紹介



一つの音楽社会運動が、台湾の地理中心^{注1}である埔里から、仁愛、魚池、国姓と四つの郷にある16ヶ所の学校と連携して、勢いを強めながら、台湾における地方の音楽教育を変革しようとしています。



日本では、小中学校、高校、大学及び社会を含め1万4000以上の支部を持つ「全日本吹奏楽連盟」があり、ベネズエラではナショナル・ユース・オーケストラ・システム (EI Sistema エル・システム) があることを見れば、音楽が青少年や若者に重要な影響を与えていることが理解できます。

人口が2,600万人余りのベネズエラは、貧困ライン以下の人口が31.6%を占めていますが、近年ベネズエラはクラシック音楽のアーティストを多く輩出する国となっています。1975年、経済学者で音楽教育者でもあるホセ・アントニオ・アブレウ（Jose Antonio Abreu）は、11人の子供たちを自分のガレージへ招集し、一緒に音楽の練習や勉強を始めたことから、ベネズエラのナショナル・ユース・オーケストラのシステムが誕生しました。

「ただ子供の手バイオリンを渡すだけで、その子供は永遠に銃器に触れることはありません。」とアブレウは言いました。音楽は貧しい子供たちや問題を抱えた十代の若者たちの運命を変える、これが El Sistema エル・システマ創設の初心です。

「音楽社会運動」の目的は、音楽家を育成することだけでなく、この社会を改善することです。El Sistema エル・システマの成功は、音楽が情操を高め、社会改革能力を啓発するものであることを、多くの人々に気付かせました。世界各地でこれに倣う動きが起こり、欧州、米州、アジアで「El Sistema エル・システマ」支部が設立されています。

2013年、埔里Butterfly交響楽団^{註2}が設立され、その後2年間で150回以上の大小の演奏が行われました。大埔里地区学校音楽人材養成に参加した外、最近の2年間は文化省の支援を受けて、新故郷文教基金会と共同で「音楽共和国」活動を推進し、音楽を偏僻な農村の学校や地域社会

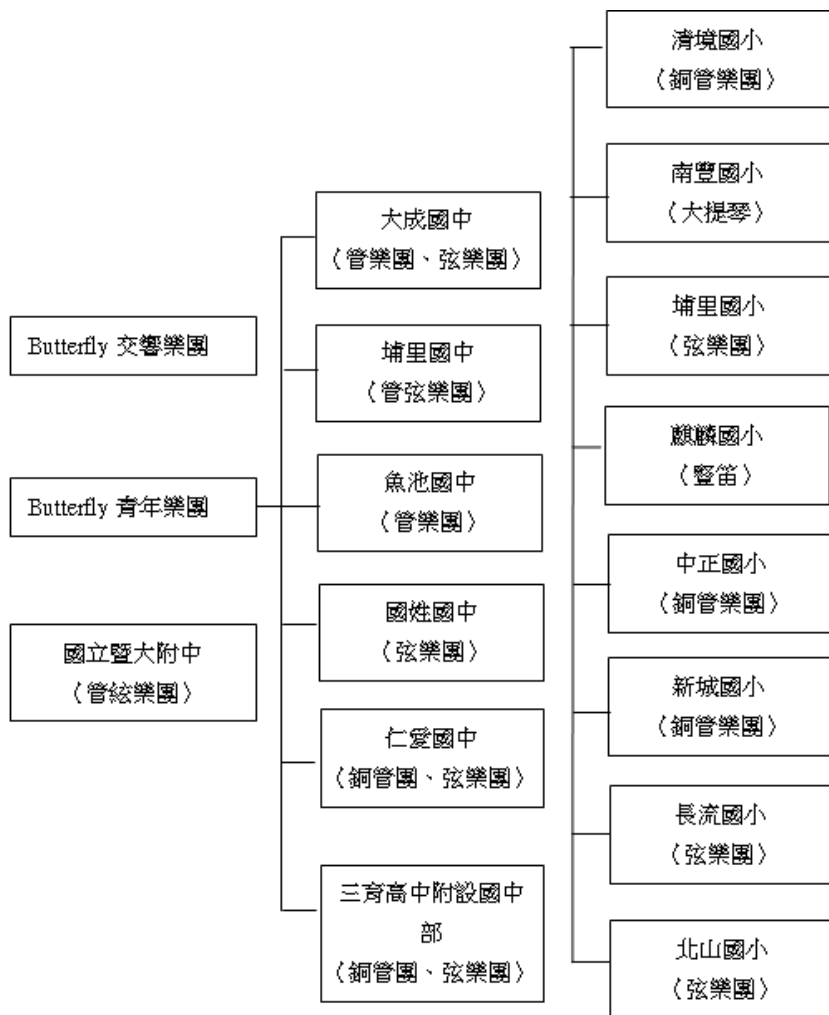


15の農山村の学校が集結、音楽の夢を育む。

へ届けました。20ヶ所近くの社会福祉施設でボランティア演奏をする「生命智慧の学習」活動にも取り組みました。さらに一方では、音楽が必要とされる場所に届けるだけでなく、若手音楽家を育成する過程で、社会との関わり、人文への関心にも力を入れました。

2009年、EI Sistema エル・システムの創始者アブレウは、米国TED年度賞を受賞した時に、「弱者の子供たちに最も必要とする援助は、金銭あるいは教育ではなく、帰属意識なのです。」と述べました。音楽を通して子供や若者のために、どうすればもう一つの生命の視野を開くことができるでしょうか？ 音楽はどうすれば社会に貢献できるでしょうか？ このように考えの結果、バタフライ交響楽団、国立暨南国際大学、国立暨大付属高校及び新故郷基金会は、共同で「蛹（さなぎ）の声音楽計画(EI Sistema Puli エル・システム埔里)」を設立しました。現在協力している学校は、1つの大学、1つの高校、6つの中学校及び8つの小学校です。冬と夏の休みには音楽キャンプを行い、音楽教師を偏僻な農村の学校へ送って授業をします。また、毎月2回日曜日の午後暨大付属高校で総合団体練習を行い、都市と農村の子供たちが一緒に音楽の夢を育てています。

その中で、魚池郷の魚池中学校では、新しい台湾の子（外国人花嫁の子弟）^{注2}が半分以上も占めています。元々は「反抗的」な子供達ですが、林家如校長先生の努力で、茶芸と空手道を導入して学習させ、「ならず者」学校の悪評を返上しました。今年には更に、「蛹の声」音楽教育の推進に積極的に参加し、新しい校風をつくり、音楽で生徒の情緒を高めました。



一方、仁愛郷の仁愛中学校の場合は、原住民の学生が殆どであり、過去数年間学生の入学率が低く、年々クラスは減っています。しかし、李孟桂校長先生の努力の結果、今年は学生が戻り、クラスも一つ増えました。この2年間、バタフライ交響楽団は、学校の銅管楽教室を支援しましたが、今年は更に弦楽部も増え、音楽を通して子供達が変貌する姿を見ることで自信も湧き、喜びに絶えません。

そして、埔里鎮の麒麟小学校では、生徒の人数はわずか50名ですが、着任したばかりの、音楽好きの陳順興校長先生は、子供達と一緒に音楽の夢を育み、偏僻な農村の学校に新しく活力を入れようとしています。

「蛹の声音楽培力計画」の音楽発展計画の特徴は次の通りです。各学校の楽器を単一化すること、大型演奏（300人の総合楽団）、大曲目（クラシックの中のクラシック曲）と大目標（国家クラスの演奏）等の三大目標を目指すことなどです。

訳注：

1. 台湾の地理中心：台湾の地理的な中心は埔里で、台湾地理中心碑がある。
2. 埔里Butterfly交響楽団： 1999年に発生した台湾921大震災後、被災地・埔里では多くの音楽家の支援もあり、音楽に対する熱意が高まった。そして、2013年民間の力を集結して誕生したのが、台湾で最初の郷鎮(町村)レベルの交響楽団・埔里Butterfly交響楽団である。2014年には、東日本大震災を訪れ、音楽ホールを建設しようとしている大槌や、東京サントリーホールでのチャリティコンサートで演奏を行った。
3. 新しい台湾の子（新台湾之子）：近年台湾の農村部を中心に、中国大陸、インドネシア、ベトナム、フィリピン、タイなどから外国人花嫁を迎えるケースが増加してきた。新台湾の子は、こうした外国人花嫁の子弟を指し、教育問題など様々な課題が生まれている。